



# CATAPULTING TO RECORD HEIGHTS

棒高跳び選手

## アルマンド・デュプランティス

「跳躍は見てくれる人との共同作業」

男子棒高跳び競技で唯一無二の存在として君臨する“鳥人”アルマンド・デュプランティス選手。2025年9月に東京で行われた世界陸上競技選手権大会では6メートル30の記録に挑戦し、3回目の跳躍で見事成功、自身14回目の世界記録更新を達成した。セルゲイ・ブブカやルノー・ラビレニといった歴代の名選手と名を連ねるデュプランティス選手を駆り立てるものとは何か？ CNNのスポーツ担当記者による2024年のインタビューと、2025年の世界陸上優勝後のコメントをお届けする。



インタビュアー

### アマンダ・デービス

1980年3月24日生まれ、CNNキャスター。オックスフォード大学で地理学の修士号を取得した後、BBCスポーツニュースの担当を経て、2012年4月にCNNに入局。「ワールドスポーツ」のキャスターを長年務め、同ネットワークのあらゆる主要なスポーツイベントの報道に携わる。2025年、英国スポーツジャーナリズム賞で「年間最優秀放送ジャーナリスト賞」を受賞している。



ゲスト

### アルマンド・デュブランティス

1999年11月10日生まれ、男子棒高跳び選手。アメリカ合衆国ルイジアナ州で生まれ、元棒高跳び選手であるアメリカ人の父と、元七種競技選手であるスウェーデン人の母のもとで育つ。幼少期からその才能を発揮し、年齢別の世界記録を次々と樹立した。2021年の東京オリンピックで金メダルを獲得、世界選手権でも複数回優勝を果たしている。幼少期からのニックネームは「モンド」。



Listening Quiz

## 51 「自分の中の葛藤を乗り越える」

**Amanda Davies** Do you feel superhuman?

**Armand Duplantis** I guess when I'm pole-vaulting, sometimes—if I'm jumpin' really good. I mean, I think outside of the track, then I feel quite normal. You know, I know that I'm never goin' to be as good at anything as I am in pole vaulting.

**Davies** What is it that makes you as good as you are at what you do?

**Duplantis** You need, kind of, the combination of speed and technique, and I think the mental side of it is almost just as important as...as anything else. You have to be a little bit crazy to be able to dare to pole-vault, because it is, kind of, a little bit of a...a freaky sport, and you, kind of, have to have the guts to be able to push yourself, and you're goin' to be uncomfortable a lot of the times when you're goin' up to stiffer poles, longer poles, trying new heights, new barriers, all the time.

**Davies** Have you ever felt fear with it?

**Duplantis** Yeah. I mean, I guess there's always that underlying fear, in a way. But I think that's the...the beautiful part of the sport—overcoming that and overcomin' these battles within yourself.

\*2024年時のインタビュー

**catapult:**

①《タイトル》勢よく飛び出す

②投石器、カタパルト

**superhuman:**

超人的な

**I guess (that) ....:**

《話》～だと思う

**pole-vault:**

棒高跳びをする

**track:**

陸上競技場

**be good at:**

～が得意である

**pole vaulting:**

棒高跳び

**dare to do:**

大胆にも～する、あえて～する

**freaky:**

《話》おかしい、異常な

**sport:**

競技、種目

**have the guts to do:**

～する気骨がある

**push oneself:**

自分を駆り立てる、がんばる

**uncomfortable:**

いやな感じで、不快な、不安な

**stiff:**

曲げにくい、硬い

**pole:**

(棒高跳びの) ポール ▶棒

高跳びでは高く跳躍するとき

は一般的に、より硬く、より長い

ポールを使用する。

**height:**

高さ

**barrier:**

障壁、ハードル

**underlying:**

潜在的な、裏に潜んでいる

**overcome:**

～を克服する、乗り越える

**アマンダ・デービス** 自分が超人的だと感じますか。

**アルマンド・デュブランティス** そうですね、棒高跳びをやっているときなら、たまに——本当にうまく跳べているときはね。でも、陸上競技以外は、ごく普通だと思います。まあ、棒高跳びほどうまくなれそうなものが絶対ないのはわかっています。

**デービス** この競技であなたをそこまで優れた存在にしているものは何ですか。

**デュブランティス** スピードと技術の両方が必要ですが、何に比べてもメンタル面がほとんど同じぐらい大事だと思います。ちょっとクレージーでないとわざわざ棒高跳びなんてできません。ある意味、ちょっとおかしな競技ですから。そして、その、自分を駆り立てる気骨がないと駄目です。それに、不安を感じることも多いんです、常により硬いポールやより長いポールに、新たな記録、新たな壁に挑戦しているんですから。

**デービス** この競技で恐怖を感じたことは？

**デュブランティス** ええ。まあ、ある意味で、常に潜在的な恐怖心はある程度あるんじゃないかな。でも、そこがこの競技の魅力だと思うんです——恐怖を克服すること、自分自身の内なる闘いを乗り越えることがね。



CNN スポーツアナウンサーであるアマンダ・デービスがインタビューした



デュブランティスは時に不安も感じるし、自分を駆り立てる気骨が必要だと語る